

3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北関東)	◎	百貨店（店長）	来客数の動き	・徐々にではあるが、来客数が前年実績を超過する日が増えている。来客数の増加傾向により、紳士服や婦人服の冬の主力商材であるコートの売上も伸長している。
	◎	都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・個人、法人の利用はいずれも伸びている。
	◎	旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・販売量が格段に増えている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・街中の人出はイベント等の復活で集客が図られている。また、プレミアム付商品券の発行で利用客が増えている。今月は今までにないほどの葬儀の出張写真撮影依頼が入り、驚いている。新型コロナウイルス感染症発生前までには戻らないものの、景気は上向いていると感じている。
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・10～11月は、紅葉シーズンで例年書き入れ時となるが、今年はコロナ禍を感じさせない販売量となっている。新型コロナウイルス感染症発生前の3か月前の売上達成度と比べても、今月の方が良い。国内客だけでなく海外からの観光客も多く、3か月前に強くみられた買い控えも余りなく、人手不足による売上機会損失を補うほどの購入量となっている。
	○	百貨店（店長）	販売量の動き	・売上は5か月連続で前年同月比100%超となっており、新型コロナウイルス感染症発生前の2018年の同月比でも100%近くまで戻ってきている。
	○	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数は増えてきており、客単価も上がっているため、景気は良くなっている。
	○	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・今月は受注、登録いずれも増加している。受注は順調で受注残も発生し、増加している。
	○	住関連専門店（仕入担当）	来客数の動き	・9月までの高温が、10月に入りやっと平年並みに戻りつつあり、季節商材の動きが始まっている。依然として、各商材値上げの影響で、買上点数は抑制されており、季節要因で、多少、前月から持ち直したにすぎない。
	○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・自治体のキャンペーンがあり、客に動きが出ている。やはり少しでもお得だと、いつも以上に動く。物価高なので、こうした消費者支援を続けてほしい。
	○	旅行代理店（所長）	来客数の動き	・年間観光シーズンのピークで、外国人の来訪と併せて、順調に推移している。
	○	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・物価高で単価は上がっているものの、販売量も増えて、新たに人を抱えてまでは対応できないため、断る案件も出てきている。
	○	タクシー（経営者）	お客様の様子	・9月は昼の動きが良かったが、10月は昼の動きは少し悪かったものの、前年同月と比べると5%の増収である。
	○	通信会社（経営者）	販売量の動き	・見積りは増えている。実績につながればよい。
	□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染が少し増えているような状態なので、イベントがあっても、なかなか人は集まらない。また、イベント終了後も、野菜などが高いため、買物も控えめで必要な物しか買っていない。
□	一般小売店〔青果〕（店長）	単価の動き	・9月、10月と、夏の高温障害により、青果の価格について、今まで経験したことのないほど高騰した商材が多く出ている。納入先でも、キャンセルやしばらくは使えないという施設、店舗等が増えている。	
□	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・気温の低下に伴い、アパレルの動きが出てきているものの、物価高による客の生活防衛意識も依然として高く、景況の大きな変化はない。	
□	百貨店（営業担当）	単価の動き	・ラグジュアリーブランド系の高額品の動きが絶好調な一方、生鮮食品、一般衣料品や雑貨アイテムの不調さも目立ち、2極化傾向が強い。	

□	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・前年比で売上は101.7%、来客数99.8%、客単価101.8%と、来客数、客単価共に、前年並みで推移している。値上げについては受け入れられ、慣れた感じがある。この先の景気に対する不安感で、買物に慎重になっている様子が見受けられる。
□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・この数か月、新車、中古車の販売に伸びがみられず、利益面は車検整備等のサービス部門で補う状況が続いている。
□	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・今月は販売量は多少あったが、人の動きや日常のお金の使い方がやや重い感じがする。
□	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・平日のビジネス客の交流会等と週末の旅行者の利用数は変わらず好調である。ただし、利用時間帯が早まっている傾向が強く、いわゆる引けが早い。幅広い時間帯で利用があると、更に上向きになる。
□	一般レストラン（経営者）	単価の動き	・客単価が良くない。イベント等もあり客足は増えているのに、客単価が足を引っ張っている感じである。
□	都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・当県独自の旅行支援策により、宿泊は好調を維持している。料飲部門も宴会を中心に、盛り返している。
□	通信会社（社員）	単価の動き	・日常生活で利用している食料品で、10月からの値上がりを実感している。買いたい商品が値引きされている店、時間帯を狙っている客の姿を見掛けるが増えている。
□	通信会社（営業担当）	来客数の動き	・インバウンドの影響を受けている業種では改善しているものの、国内消費は物価上昇の影響で、引締め状態にある。
□	通信会社（総務担当）	販売量の動き	・9月に発売した新商品の積滞により、10月も販売数を維持している。
□	通信会社（局長）	お客様の様子	・物価高は相変わらずで、周りの客の状況も余り変わっていないようである。
□	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・例年よりも温暖な天候に恵まれて、来園者数も増加傾向にある。ただし、学生団体の旅行先が、新型コロナウイルス感染症発生前に戻り変更されること等もあり、全体的には余り変わらない。
□	競輪場（職員）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の5類移行後、娯楽の多様化により、来場者数が伸び悩んでいる。また、物価高による出費を減らすために、出掛けることを控えている様子もある。
□	美容室（経営者）	来客数の動き	・例年なら、結婚式のお呼ばれや旅行に出掛けるためのニーズが多い月で、回復が見込まれていたが、期待外れの売上である。
□	設計事務所（所長）	お客様の様子	・今月は特に動きがみられない。価格高騰の影響だと考えられる。
□	住宅販売会社（経営者）	単価の動き	・世間一般では物価高でインフレ傾向にあるといわれているが、不動産の地価は、いまだ横ばいである。
▲	一般小売店〔酒類〕（経営者）	販売量の動き	・物価高が影響しているのではないかと。
▲	スーパー（総務担当）	販売量の動き	・野菜価格の高騰等の影響で、売上が鈍化している。
▲	衣料品専門店（販売担当）	来客数の動き	・このところ、ずっと悪いが、悪さがじりじりと首を絞め付けるような、そういう雰囲気悪さである。重い感じで、日々どのように接したら良いのかというほど、じわじわと悪い状況が続いている。
▲	住関連専門店（店長）	来客数の動き	・物価上昇、特に食品の値上げが止まらずに、行政の救済措置もないため、やや悪くなっている。
▲	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	来客数の動き	・予約はそこそこ入るものの、フリー客の動きは3か月前と比べると、明らかに鈍い。
▲	その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	販売量の動き	・当社はテイクアウトの商材を販売しているが、10月が非常に暑かったこともあり、前年比での売上が9割から9割5分くらいなので、若干悪い。
▲	その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	単価の動き	・主力の事業所給食では、食材費や光熱費等の値上げに伴い、食単価等の取引条件見直し交渉を前年から続けてきている。4月の新年度以降、順次見直しを受け入れてもらった結果、収支の改善はみられるようになったが、その後もコストアップが続いており、以前の水準に戻るところまでには至らない。

	▲	タクシー運転手	お客様の様子	・9月19日から初乗り料金が値上げになったこととは関係ないと思うが、利用客が減少している。出張等で電車に乗っている人も少なく、また、夜の飲食店での客も少ないため、タクシーの利用客は減っている。値上げ前は、基本料金が2キロメートルまで740円だったが、値上げ後は1.1キロメートルで500円となったので、売上が落ちていることもある。
	▲	ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・予約数が伸び悩んでいる。客が他のレジャーに移っているように感じている。
	▲	その他サービス [自動車整備業]（経営者）	それ以外	・街のにぎわいや商店の活性が、夏よりも落ちている。
	▲	住宅販売会社 （経営者）	お客様の様子	・ここにきて、事務所関係の撤収が目立ってきている。支店を閉めるという形である。また、飲食店関係でも、街中の人通りが少なく、店を閉めているところが、かなり多くなっている。
	▲	その他住宅 [住宅管理・リフォーム]（営業）	販売量の動き	・修繕案件が少ない。コロナ禍での修繕が相次いだためか、需要を先食いした感がある。
	×	一般小売店 [家電]（経営者）	販売量の動き	・物価高の影響で、客の動きはかなり鈍い。
	×	スーパー（商品部担当）	来客数の動き	・3か月前と比較すると、来客数、売上は5%減少で推移している。生鮮食料品を扱うドラッグストアの出店による影響が大きいことが原因とみている。
	×	家電量販店（店長）	来客数の動き	・買換え需要が鈍ってきており、来客数に影響が出ている。
	×	家電量販店（店員）	販売量の動き	・前年10月の前月比は103%だったが、今年は97%と販売額が減速している。前年比ではエアコンが76%、冷蔵庫70%、洗濯機90%で、全体としては84%と大きく下回り、振るわない。
	×	家電量販店（営業担当）	来客数の動き	・来客数は前年比80%前後で推移している。状況確認では全国旅行支援のクーポンを活用しているという声が多い。
	×	乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・当社も他社も、新規客の来場数がますます減っている。
	×	ゴルフ練習場（経営者）	単価の動き	・零細企業の人手不足が深刻である。
企業 動向 関連 (北関東)	◎	—	—	—
	○	金属製品製造業 （経営者）	受注量や販売量の動き	・取引先から値上げを認められている。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・自動車向けのスポット量産の仕事が立ち上がり、一部の部署では24時間稼働体制で対応している。
	○	輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先の様子や販売量等が、今月は若干良い状況である。
	○	輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・取引先の生産が安定して、受注が増えてきている。
	○	経営コンサルタント	それ以外	・引き続き、地域経済は好不調が混在して、まだら模様である。商業施設等への来客数からみると消費は活発とはいえない。業種的には自動車部品関係が順調で、小売関係や飲食店等では業績が2極化し、一様ではない。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今は買い控えが起きていると感じている。
	□	窯業・土石製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・順調に稼働しているものの、人手不足が影響してくるのではないかと懸念している。
	□	金属製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注単価を上げてくれた得意先が50%くらいある。残りの半分は、交渉をしてもなかなか上げてくれないため、経営は厳しい。

	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年9月から12月までの間はかなり受注量が増えるが、今年は前年と同様にほとんど伸びず、かえって落ち込んでいる。当社としては結構厳しい状況になっている。それほど景気は良くなっていないのではないかと。
	□	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・季節物の冬物家電、電気カーペット、こたつ、ヒーター、冬物寝具等は、前年並みの輸送量を確保している。しかし、2024年問題の対応体制ということで、協力会社は土日祝日の休日が多く、車両確保が難しく、運賃は高騰しており、利益確保は厳しくなっている。
	□	広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・年末にかけて広告出稿件数は、ほとんど増える気配がない。SNSによるPRを利用するケースが増えており、紙媒体の出稿は今後も減少するとみている。
	□	司法書士	受注量や販売量の動き	・変わらないからやや良くなっているに判断を上げるほどではないが、少し良くなりつつある。法律が変わった部分があり、その影響が出始めたのかという気がしている。
	□	社会保険労務士	取引先の様子	・忙しいという話をよく聞くが、じっくり聞くと人手不足で忙しいという事業所が多い。
	□	その他サービス業 [情報サービス]（経営者）	取引先の様子	・特段の変化はみられない。
	▲	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・当社は各種メーカーと取引をしているが、ほぼ全業種からの発注が減少している。自動車、電機、食品、産業廃棄物、事務機等の各種装置や部品加工の全てで減産傾向にあるという経験は、過去にないことである。
	▲	不動産業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・利益率の良かった清掃管理業務の取引が解消する等、業務が減少したため、売上、利益共に減少している。
	×	建設業（開発担当）	受注量や販売量の動き	・公共工事主体で売上の95%を占めている。公共工事の発注は前年比6.5%増加だが、前々年比では14.5%減少のため、全体的には厳しい。
雇用 関連 (北関東)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（管理担当）	採用者数の動き	・派遣依頼が多くなってきており、採用数も増えている。
	□	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・小売関係は、衣料品と生鮮食料品等のスーパーでの足並みがそろってきた状況だが、求人については応募と採用がなかなか合わず、人が流れていない。旅館やホテル等は募集がある。製造業関係はほぼ定着していて、減産や減量の機械部品、電子関連にはなかなか人が集まってこない状況である。住宅関連は横並びで平衡点の状態である。材料の価格高騰が大変なようである。
	□	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・50歳以上の新規登録者の割合が高く、転職までの期間も長くなっている。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数が前年同月比で減少と増加を繰り返している。
	□	学校 [専門学校]（副校長）	それ以外	・物価高により金銭的に苦しい人が増え、学費納入について期限までに支払えないという相談が増加している。
	▲	人材派遣会社（従業員）	求人数の動き	・求人がなく、派遣期間満了時に終了となる取引先もある。
	×	—	—	—